

2023年9月5日

ちば産学官連携プラットフォーム 2023年度学生実態調査

ちばPFプログラムへの参加意向の探索的分析

山本功（淑徳大学）

ちば産学官プラットフォーム（以下「PF」）加盟校の学生に関して、以下の4項目を探索的に分析します。PF主催の教育プログラムへの参加意向を把握することを目的とします。

問3. あなたは、行政（千葉市）等と連携したプログラムに参加したいと思いますか？

問4. あなたは、地元企業等と連携したプログラムに参加したいと思いますか？

問5. NPO等と連携したプログラムに参加したいと思いますか？

問6. あなたは、自治会等と連携したプログラムに参加したいと思いますか？

選択肢は、いずれも、積極的に参加したい、都合が合えば参加したい、参加したいとは思わない、の3件法。

1. 相関分析

表1 連携先別PFプログラム参加意向の相関分析 N=2546

	行政等	地元企業等	NPO等
行政（千葉市）等			
地元企業等	.834**		
NPO等	.816**	.799**	
自治会等	.824**	.819**	.827**

** $p < 0.01$

連携先として行政、地元企業、NPO、自治会の4種類をあげて学生の参加意向をたずねたが、その相関を表1に示した。いずれも正の相関であり、また比較的強い相関となっている。

どこかひとつの連携先への参加意向は、他の連携先とのプログラムへの参加意向と結びついており、連携先によって参加意向が大きく異なるということはない。

2. 因子分析

※3件法での因子分析であり、精度はよくはない。

最尤法で因子分析した結果、一因子構造にまとまった。初期の固有値は 3.46、抽出後の負荷量平方和は 3.28。一因子構造であったため、回転はできない。

なお、主成分分析を行っても、第一主成分のみとなった。

3. 信頼性分析

4 項目の信頼性係数は $\alpha = 0.95$ であった。かなり高い。どの項目を削除しても、これ以上になることはなかった。

4. 単純加算尺度の算出

2 と 3 の分析結果を踏まえて、P F プログラム参加意向得点を算出した。「積極的に参加したい」に 2 点、「都合が合えば参加したい」に 1 点、「参加したいとは思わない」に 0 点を与え、総和を「P F プログラム参加意向得点」とした。最小値 0、最大値 8 である。

平均値 2.66、標準偏差 2.11、尖度 -0.70、歪度 0.10 となった。分布を図 1 に示した。

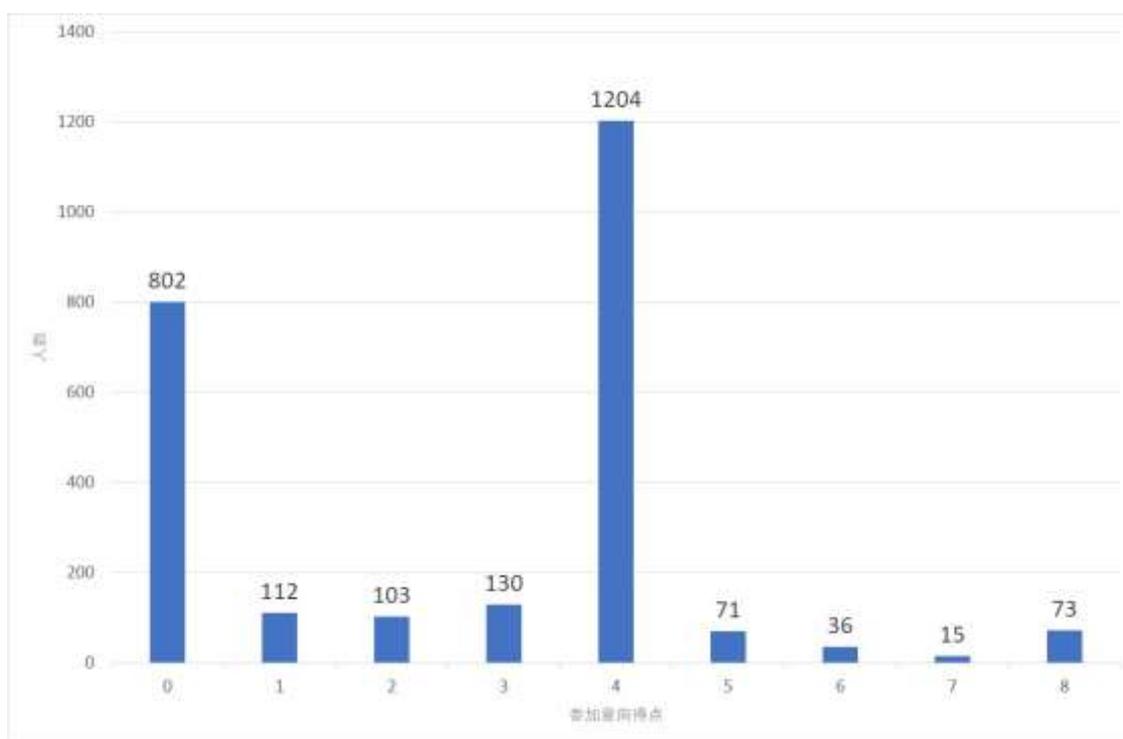


図 1 P F プログラム参加意向得点 N=2546

分布をみると、4 点が 1204 人 (47.3%) と突出している。4 項目すべてについて、「都合が合えば参加したい」という回答者が多かったものと思われる。ついで 0 点が 802 人 (31.5%)

であった。

5. 学年を独立変数とした一元配置分散分析

学年を独立変数とし、P Fプログラム参加意向得点を従属変数とした一元配置分散分析を行った。記述統計量を表2に示した。

	n	平均値	標準偏差
1年生	1082	2.83	2.05
2年生	672	2.51	2.10
3年生	409	2.80	2.17
4年生	383	2.33	2.22

一元配置分散分析の結果、 $F(3)=7.08$ 、 $p<0.001$ で有意な差がみられた。Tukey の HSD 法で多重比較した結果、1年生と2年生、1年生と4年生、3年生と4年生との間に5%水準で有意な差がみられた。1年生と3年生が参加意向が高い傾向にあったということである。

以上